

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (東北)	良くなる	百貨店（経営者）	・株価の回復が著しく、特に資産家、高所得層には資産効果が大きく貢献している。また、現在は大勢の人が投資信託等をしており、これまで含み損を抱えていた人がプラスに転じてきている。多くの人が資産効果の恩恵を受ければ、景気の回復が期待できる。
		コンビニ（店長）	・気温にもよるが、3か月後の7、8月は年を通して売上、来客数、単価すべてでピークとなる。今年は景気の上昇により、更なる期待ができそうである。
		一般レストラン（経営者）	・毎朝行っている市場の活気や人の出入りがやや多くなってきている。また、当店でも当日予約がかなりあると予想される。長年の経験からも、人の出入りも多くなり忙しくなるとみている。
		タクシー運転手	・当地だけが特殊なのかもしれないが、どこに行っても人が多く、学会で訪れた客も人の多さに驚いていた。当地は今良い方向に向かっており、このままいくのではないかと。
やや良くなる		商店街（代表者）	・客も景気楽観説には半信半疑であろうが、それでも7月の参議院選挙までは政治が無理にでもムードを高めてくのではないかと。夏のボーナスが10%でも増えれば良いが、これが増えない場合は期待が失望に変わる懸念もある。そうなるかの可能性は半々である。
		商店街（代表者）	・各店においても大きく変わる要因は見られないが、徐々にではあるが全体的に客足は伸びてきている。
		商店街（代表者）	・4月の後半より桜の開花もあり、これから本格的な春として夏物の動きが出てくる。観光客並びに地元客も外に出る機会がこれから増えていくので、天候が良くなることを祈っている。
		商店街（代表者）	・アベノミクス効果が徐々に浸透し、景気回復への兆しが出てきている。
		百貨店（売場主任）	・天候の回復やガソリン価格の値下がりなどの要因で人の流れが良くなり、今月に比べ消費マインドが上向いていくという期待感がある。
		百貨店（総務担当）	・中央では円安や株高の影響が実際の消費に回ってきているとの報道もある。それを受けて、地方においても夏のボーナス商戦以降あたりを上向きの景況感が数字に反映されてくるとの期待がある。
		百貨店（売場担当）	・4月の気温は異常であり、この状態が長く続くとは考えられない。今の社会情勢や景気の状態から、4月の負け分が5月単月で取り戻せるとはいえないが、買い控えをしていた方の反動は多少なりともあるはずである。
		百貨店（経営者）	・周辺企業の賞与が前年増となりボーナス商戦が期待できる。株高とは違い賞与増は全体の景気を上向きにさせるので期待できる。
		スーパー（店長）	・ますます競争激化エリアになるが、競合店オープンの影響も落ち着き、業績回復の見通しを立てている。
		スーパー（店長）	・中元商戦を目前にして、ベースアップ等の満額回答もあり、消費全体が上向いている。
		コンビニ（経営者）	・買上点数が大幅に伸びているのは、景気の上向きに期待して、気持ちに少しの余裕が出てきているためとみられる。買上単価も前年比3%増だが、買上点数ほどの伸びではないので、緩やかな上昇という判断である。財布のひもは間違いなく緩んできているが、あと一歩のところである。
		コンビニ（エリア担当）	・客単価に回復の兆しが見られる。店内で調理しているファストフードや生鮮品などの伸長が起因している。
		コンビニ（エリア担当）	・当社の出店ペースも加速する。また、施策も多く実施する。
		コンビニ（エリア担当）	・公共事業の進行や賃上げ、金融緩和などの効果が少しずつ一般消費者まで波及するとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・暖かくなれば、来客数の増加も見込める。
		衣料品専門店（店長）	・前年は震災の影響もあり、シニア層の旅行マーケット、ジャケットマーケットがなかなか動いていなかったが、今来店している客の感触では、この辺の客の動きがそろそろ出てきそうである。夏に向かって閑散期的なタイミングでこういったシニア層の動きが活発になってくるので、少し良くなっていくのではないかと期待している。
		家電量販店（店長）	・前年が景気の底とみているので、緩やかに改善していく。

家電量販店（店長）	・全体的に景気は上向きようだが、業界や業種によりばらつきがある。日経平均株価が上昇しつつある今の段階では、やや良くなる方向に向かっているようではあるが、小売業について油断は禁物の状態である。
家電量販店（店長）	・原発事故の賠償金や復興需要の影響で、単価の高い、少し良いものが売れている。テレビの不調は現在も続いているが、2、3か月後にはこの不調も脱するとみている。県全体としても3か月後から明るくなってくると期待している。良いものを買うという単価の上昇志向も見られることから、景気も良くなっていくことが期待できる。
乗用車販売店（経営者）	・個人の購買意欲の盛り上がりはまだ少々欠けており、受注面では当面10%近い前年割れが続くとみられる。しかし、円安株高による好業績を背景に、法人関係の代替え需要の発生に支えられていく。
乗用車販売店（経営者）	・活発化しつつある客の動きに加え、新型の軽自動車発売など、期待されるイベントがある。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・今後、新年度予算の執行や除染活動の拡大により、軽油の需要を中心に増加してくるものと予想される。また、復興需要が原発賠償金の支払の執行とともに地場の建設を下支えしていくので、当面、石油需要は堅調に推移する。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・燃料の売行きが回復傾向にある。4月後半は前年比ガソリン101%、軽油106%と前年を上回っている。除染関係の仕事が本格的になったことが影響しているようである。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・2013年度に入り売上高が前年と比較して伸びている傾向にある。
高級レストラン（経営者）	・今の円安であれ、株高であれ、しばらく続くとみられる。日本経済も大分復調してきており、当社のような零細企業にすぐには影響しないが、良くなりつつあるのではないかと。
高級レストラン（支配人）	・連休明けは財布のひもも固くなるが、景気の回復の風潮を感じて、夏物商品の消費や国内旅行等の計画が早期に実行される。
一般レストラン（経営者）	・アベノミクスに期待している。
一般レストラン（経営者）	・アベノミクスの影響はまだまだあり、今後も良くなっていく。ただ、マスコミ等のあおりもあつての現象とみられるので、本当に良くなるのかどうかは、今後行政が景気回復に向けきちんとした対策を行っていくのかで決まる。
観光型ホテル（スタッフ）	・仙台空港の発着等、新たなフライトも増えている。それにより、ビジネス客が多いが県内への入込も増え、予定外の入込もそれなりにある。こういったことが観光にも好影響を与えることを期待し、来客増に向けた取組をしたい。多少明るさが見えてきている。
都市型ホテル（スタッフ）	・夏に向けて復興イベントが組まれており、県外からの客がたくさん訪れる。
旅行代理店（従業員）	・アベノミクスの効果が期待できそうである。
タクシー運転手	・働きたくても仕事が無いという客がよくいるが、仕事はあるが全部短期で、不安で就職ができないということのようである。とにかく長期の仕事が全くない状態であるという話をよく聞く。
通信会社（営業担当）	・自民党政権に代わってから、景気のムードが上がっているようであるし、実際に財布のひもも緩くなっている。投資意欲もわいて先行きは明るいようであり、期待が持てる。
テーマパーク（職員）	・夏に向かってアベノミクス効果が今よりも明確になってくる。
観光名所（職員）	・当社は他の県からの客が多くなっている。地元の給与所得者の所得は特に増えてはいないが、そういった方たちの購買意欲は上がっており、財布のひもも若干緩んできているようである。今後、来客数さえ伸びれば、売上も一気に増えていくのではないかと。
美容室（経営者）	・梅雨時期になると、ストレートパーマをかける客が増える。
その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・しばらくは良い状態が続くとみられる。しかし、円安による石油関連原材料及び消耗品の値上がり、7月からの電気料金の値上がり、来春の消費税の引上げといった懸念材料もある。
住宅販売会社（経営者）	・消費税増税前の駆け込み需要により、住宅はもとよりRC賃貸マンションの受注が複数確定している。
その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・震災で被災した家屋の緊急の修繕対応は落ち着き、平常の修繕リフォームの問い合わせに戻っている。

変わらない

商店街（代表者）	・一般的な経済指標や各新聞ではみな景気が上向きになっていて、良くなるはずなのだが、置かれている立場、業種、商売の内容によって、良い悪いが分からない状態になってきている。このまま横ばいになっていくのではない。 ・このまま推移していくような雰囲気がある。
一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・アベノミクスの影響による給料のアップはごく一部の人であって、これから行われる電気料金の値上げなど、生活に関わる値上げが増え始めている。円安で恩恵を受けた資産家を除き、一般消費者はこの値上げに対して非常に不安を持ち、財布のひもが固くなっている。
一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・景気が上向いているのは確かである。ただ、極端に伸びる材料は見当たらないので、このままで推移するのではないかとみている。
一般小売店〔寝具〕（経営者）	・前年までは4月に入れば商品の動きが見えたが、今年は先行きが見えない。
百貨店（企画担当）	・様々な景気対策のもと多少の追い風は感じる。しかし、大きな期待感を持って臨んだ春商戦も、高額商品の動きが好調であったため前年を若干上回る実績で推移したが、一部の商品の動きにとどまり、消費全体を押し上げるまでは至っていない。ここ2、3か月は現在の動きのまま推移すると予測する。
百貨店（営業担当）	・来年の消費税増税を控え、高額品を中心に少しずつ特需の傾向が出てくるとみられる。一方で、お中元については、震災特需も一段落しており大きな伸びが望めないことから、落ち着いた数字で推移するものとみられる。
百貨店（買付担当）	・株価上昇で潤う人も一部にはおり、円安による輸出拡大の期待もある。しかし、公共料金や食料品、ガソリン、灯油などの値上げもあり、財布のひもは固くなる。
百貨店（経営者）	・今後2、3か月で景気が上向く要素は具体的にはない。株価上昇の恩恵は地方には及んでおらず、高額商品もさほど動きが良くはなっていない。
スーパー（経営者）	・販売量は安定的だが、商品原価上昇傾向のなかで価格競争は厳しくなる。
スーパー（経営者）	・5月は現在の株高推移や民間各社のエネルギー対策投資も聞かれ、政府の対米、対口交渉、貿易交渉も進みだし、将来的な期待感も膨らんでいるようである。ただ、一部百貨店を除き、足元の消費状況には変化が見えてこない。消費環境は大手コンビニ各社の大量出店計画や競合各社の出店など競合関係が厳しさを増すものと予想される。景気への金融緩和の後押しも出て、円安が進み、株高もあり、輸出業など国内の設備投資拡大を期待したい。そして雇用の改善、消費者所得の底上げにつながっていくことを期待したい。ただ消費の状況はしばらく現状のまま推移するものとみている。
スーパー（店長）	・来客数は微減、1点単価及び買上点数も減少という状態が続いているなか、価格を上げるどころか、ますます価格競争に拍車が掛かっている。この状況は簡単に脱却できそうにない。
スーパー（店長）	・金融政策による円安や株価の回復など、国内の景気そのものに期待感があるが、農業生産県である本県ではその影響も少なく、逆にTPP参加や消費増税など不安材料も多い。
スーパー（店長）	・競合の状況も来客数も変わらない。
スーパー（物流担当）	・4月からの輸入原材料の価格上昇による商品の値上げが始まっており、客の購買動向はより価格に向いている。競合状況が激しいなかでの集客には、チラシ価格を強く打ち出さなければならず、1点単価及び客単価の下落傾向が続く今の状況は変わらない。
コンビニ（経営者）	・現在のままの推移になると予想している。
コンビニ（エリア担当）	・現状で来客数が回復傾向にあり、夏の観光需要にも期待が持てる。引き続き来客数の回復に期待している。
コンビニ（エリア担当）	・円安、株価の上昇で一見、景気が好転しているようだが、この状況が継続できる希望は持てないため、給与支給を増やす企業が増えたとしても、世の消費が増えはしない。
衣料品専門店（経営者）	・フリー客のシビアな購買状況は変わらないが、富裕層の購買が活発な状況はこれからも続く。
衣料品専門店（経営者）	・大雪の影響により車関連と建設関連に多少の上昇機運が見られ、今後に期待できる見通しである。また、円安で輸出関連企業の復調に期待する。
衣料品専門店（店長）	・円安や株価上昇など、景気回復への期待を持ちたいところであるが、一般消費者の給与に恩恵が出てくるまでの間は急に購買意欲が高まるとは考えにくい。

衣料品専門店（店長）	・年々、クールビズによるスーツ離れが進んでおり、客単価が低下している。
衣料品専門店（総務担当）	・来客数及び買上点数に増加が見られない状況のため、景気の上向き、消費活動の増加にはまだ時間が掛かる。
乗用車販売店（経営者）	・例年、この時期から8月までは販売量は下降傾向にあるが、今年はその傾向が早まってきている。
乗用車販売店（従業員）	・今後も新型車が何台か出る予定があるので、景気が良い状態が続くとみている。
乗用車販売店（店長）	・ハイブリッド車やエコカー等、話題性のある新型車の予定は無い。今後しばらくは我慢が続くだろう。
自動車備品販売店（経営者）	・例年だと6月くらいまで繁忙期が続くのだが、今年は現在の仕事量が少ない状況が変わらないと予想される。
住関連専門店（経営者）	・地方は過疎化などで需要を引っ張る力に乏しく、インフレによる売上回復には相当の時間がかかる。また、今後消費税増税による影響を心配している。
住関連専門店（経営者）	・現状ではなかなか回復基調は見えない。大企業はアベノミクスの恩恵を受けることができるが、地方ではまだまだそういうところはないので難しい。2、3か月先も現状のまま変わらない。
住関連専門店（経営者）	・デフレ解消の経済効果も出ているが、当店に来る客はデフレ解消というよりも、値段の安い商品を求めて来る客が多いため、なかなかデフレの解消というわけにはいかない。それで、景気が追い付いていかない面がある。
その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・現在、問い合わせや見積の件数が出てきているが、すべてが契約や受注に至るわけではなく、ある程度の件数に落ち着くのではないかと予想している。客はまだお金を使うことを渋っている様子が見られるため、今後も市場全体の活性化は期待できそうにない。消費者全体でもお金の循環はできていないようである。
その他専門店〔酒〕（経営者）	・天候が良くなれば動きも出て売上が上がるのは当然だが、それが今以上であったり例年以上かと問われれば何とも言えない。まだまだ消費者の財布のひもは固いままである。報道などに流されてそれが簡単に緩むとは到底考えられない。
その他専門店〔食品〕（経営者）	・まだまだ地方ではアベノミクスの効果は現れていない。消費者の様子見が続くのではないかと。
その他専門店〔靴〕（従業員）	・一部企業の業績回復など良い要素もあるが、地方ではまだ変化が現れていない。
その他専門店〔酒〕（営業担当）	・特に大きな変動要因は見当たらない。これから各メーカーの動きが活発になるようなので、定番の売れ筋商品と付加価値の高い人気商品の集約と新商品発売による品ぞろえやメニューの入れ替わりが少しずつだが着実に進んでいくとみられる。しばらく堅実な動きが続くと予想している。
一般レストラン（経営者）	・以前だとレストランや少し高級な飲食する客の中心は中高年であったが、この頃はそういうことを控えている。今後とも景気の良し悪しにかかわらず、そういったことは控え続ける習慣が付いてしまっているのではないかとということで、今と変わらない状況が続くとみている。
一般レストラン（経営者）	・良い話は聞こえてこないが悪い話もそれほど聞こえてきていないので、現状維持が続くと予想している。
スナック（経営者）	・今月は歓送迎会で多少人の流れもあったが、来月からは連休もあり、来客数はまた元に戻る。多少景気が上向きのような気もしないではないが、都心から当地までそういった流れがくるには時間が掛かりそうである。
観光型ホテル（経営者）	・震災復興支援関係の客も減り、4～6月の地域の一大キャンペーンも集客があまり芳しくない。
観光型旅館（経営者）	・世間の景気は上向きのような雰囲気でも報道されているが、実際の予約は特に増減なくあまり変化はない。
観光型旅館（スタッフ）	・ゴールデンウィーク期間の国内旅行需要の向上が報道されたが、施設の現実としては、売れる日は一部に集中しており、構造上一日の売上に限界もあることからあまり変化は無い。今後もその傾向は継続されるとみられるため、在庫と料金のコントロールを強化していかなければならない。
都市型ホテル（スタッフ）	・消費者のマインドは格段に回復しているようだが、ホテル業についてはタイムラグがあるため、実感として出てくるのはまだまだ先である。そのときのために、消費者のニーズに応えられる商品をそろえておくことが必要になる。
都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊はJRA開催の週末特定日、一般宴会は定例の件数以外は今のところ目立った動きはない。景気回復による職場旅行や家族旅行に期待したい。
旅行代理店（経営者）	・今の状況からみて2、3か月後に良くなる要素が見い出せないため、変わらない。

	旅行代理店（店長）	・現在既に良い状態にあり、今後大幅な円安に傾かない限りは良化も悪化もしない。
	タクシー運転手	・これから始まるゴールデンウィークに期待したい。
	通信会社（営業担当）	・2、3か月は景気は変わらない。夏の賞与時期が分岐点とみられるが、今後は格差が生じてくるのではないかとみている。
	通信会社（営業担当）	・アベノミクス効果を期待している。
	通信会社（営業担当）	・現在の水準は継続すると予想され、短期での改善は望めない。
	通信会社（営業担当）	・一部では回復している兆しもあるが、全体としては変化は無い。
	通信会社（営業担当）	・一部の業界では好況感があるようだが、東北の大方の企業では好況感を感じるまでに至らない。
	通信会社（営業担当）	・4月は転入による新規加入の大幅な増加があったが、5月以降はしばらく新規加入が見込まれる大きな要素が無いため、売上もあまり変わらない状況が続くとみられる。
	観光名所（職員）	・この先の予約状況は前年並みである。
	遊園地（経営者）	・景気回復はメディアで報道されるほどには地方に波及していない。ただ、他の地域よりは復興需要により下支えされており、下降には至らない。
	競艇場（職員）	・現在の景気からよほど良くならないと、当業種には影響が出ない。
	美容室（経営者）	・期待感で良くなってほしいということはあるが、客の動向からして、まだしばらくはこの状態が続くとみている。一気に回復というのは難しい状態である。
	美容室（経営者）	・景気は少し良くなりそうな期待はあるものの、客の動きなどで実感できるまでには時間が掛かりそうである。
	設計事務所（経営者）	・しばらくはこのままの状況が続くとみている。
やや悪くなる	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・大きくまとめ買いをし、今まで富裕だと思われていた客が経済的に余裕が無くなったという話を立て続けに聞いている。さまざまな事情で蓄積してあった資産を失ってしまったということである。得意客でも、本当に収入が多い人はまれで、資産を取り崩してやりくりしている人がほとんどのようである。特に若い人は資産も少なく、医療や保健に自費をかける傾向が見られる。優良な客層は従来の高齢者であるが、この層が薄くなっていくと予想される。
	スーパー（総務担当）	・既存店の来客数と買上点数が前年比94%台となり、落ち込みが大きい。なかでも、花とベーカリーの売上高の落ち込みが大きい。それだけ儉約志向が進んでいるとみられる。
	コンビニ（経営者）	・天気や気温が安定しない限りは、景気もなかなか良くならない。
	コンビニ（店長）	・当店の周りの会社は電力関係が多いが、今年の労使交渉も思わしくなかったようで、いらいら感が非常に募ってきている様子がうかがえる。そして、価格に非常に敏感であり、あまりお金を使わないようにとの工夫が見られる。また、原油価格も上がるなど、良い材料も無い。しかしながら、そこまで悪くもないので、やや悪くなるくらいの雰囲気である。
	乗用車販売店（店長）	・半期決算期前ということもあり販売量が毎年伸び悩む時期でもあるのに加え、クリーンディーゼル補助金も終了したことも重なるので、景気が落ち込むことが考えられる。
	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・夏物の動きが全く読めない。売りたい商品はたくさんあるのだが、果たして客が求めているのは何なのかを逆に調査をしていかないと取り残される気がする。
	高級レストラン（支配人）	・ポイントになるのはT P Pである。情報がない分不安感が大きい。多分現在の雇用や給与にも影響が出るはずである。
	都市型ホテル（スタッフ）	・大雪に加えて、当県では大手電子部品メーカーのグループ会社が相次いで閉鎖しており、県内景気に与える影響は非常に大きくなっている。デスティネーションキャンペーンが始まる秋までは何とか持ちこたえたい。
	都市型ホテル（スタッフ）	・向こう3か月の予約状況から、今後はやや厳しい局面を迎えると予想される。
悪くなる	スーパー（経営者）	・食品のみならず日常生活品等々の値上げ要請がきているが、原価が上がっても売価ベースでは転嫁ができない。また、給与ベースに反映されるにはまだまだ時間が掛かる。
	コンビニ（経営者）	・人口の流出がかなりあり、客の動きが大分鈍くなっている。そういった面ではかなり落ちると予想される。
	衣料品専門店（経営者）	・光熱費の値上げや消費税率の増税等を控え、先行きの不安が買物を慎重にさせている。

企業 動向 関連 (東北)	良くなる	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・原発賠償金が各企業に入っているため、それにより景気も上向くと予想される。また、国の企業立地資金を始めとする復興関係の補助金が行き渡ってきて、景気の下支えになる。株式市場も回復しているため、そういう部分もプラスに作用していく。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先の設備投資に期待感がある。
		建設業（従業員）	・官公庁からの発注見通しが出始めてきており、夏ごろにかけて地方自治体WTO案件の出件が見込まれている。
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・デスティネーションキャンペーンで少し動きは良くなりそうである。
		繊維工業（経営者）	・円安株高等により、何となく景気が良くなっているような雰囲気があるので期待したい。
		木材木製品製造業（経営者）	・住宅着工が順調に推移する。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・年度の初めということもあり、少し動きが出てくるような話が来ている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・円安による会社業績の改善継続、アベノミクスによる公共事業拡大での周辺企業の業績アップ、また夏の賞与の期間に入るため、今年に入ってからの会社業績改善が実利として見えてくるフェーズに入る。
		建設業（企画担当）	・技術者不足等一部に懸念があるものの、官庁工事の出件増で受注量の増加が見込める。
		通信業（営業担当）	・株価の上昇、円安の進行によるメリットが地場企業へ浸透しはじめて、雇用及び設備投資が上向き、販売価格等も上昇するとみられる。
		金融業（広報担当）	・販売額の増加が期待できる。
		広告業協会（役員）	・広告業界も業績が上向いてきたので人材募集に力を入れているが、応募者が集まらず苦戦している。
		広告代理店（経営者）	・選挙も控えており期待しているが、印刷物の用紙の値段が上がるとのことで、その分を価格に反映できるかどうか微妙なところである。
		広告代理店（経営者）	・様々な業務に関する引き合いが多くなっている。
		司法書士 公認会計士	・消費税増税前の駆け込み需要が期待できる。 ・建設関係は人手不足、資材不足で復興関係の仕事が進まない状況であるが、これが落ち着いてくれば、徐々に景気は良くなるとみられる。
変わらない	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・2月ころから前年とは様子が大きく変わってきている。受注量、販売量共に前年より非常に良い状況にあり、今後も期待が持てる。	
	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・デスティネーションキャンペーンが6月まで続くことから、地元、観光需要の高まりによるホテル、旅館を含めた飲食需要に期待が持てる。	
	金属工業協同組合（職員）	・依然、低価格及びコストダウンの要請はあるものの、以前に比べて量及び新規引き合いが目立ち始めてきている。	
	農林水産業（従業者）	・農家の収入は震災前と比べ前々年は3割、前年は7割程度となっており、風評被害は徐々に少なくなっている。今年こそは従来の値段で売れるのではないかと期待感がある。	
	食料品製造業（経営者）	・観光土産としての牛タンの人気は維持されている。レストラン関係の売上も、やはり当地に来たら牛タンをという客がまだまだ根強くおり、今後もしばらく変わらないとみられる。また、アメリカの牛タンも30か月齢以下のものが入荷されるとなると、品質的に向上することも予想され、人気はまだ維持する。	
	食料品製造業（総務担当）	・消費者に景気向上の実感がないようなので、当面変化は無い。	
	食料品製造業（総務担当）	・商品はし好品であるが、購入額は変わらない。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・円安による輸出環境の良化はあるが、国内生産に大きな変化は無い。	
	建設業（経営者）	・現在は景気よりも物価上昇が先行している。今後は消費税増税の影響で工事は増えると予想され、期待もしている。	
	輸送業（経営者）	・若干の変化は見られるが、大きな好転は期待できない状況である。	
	輸送業（従業員）	・貨物の動向に大きな変動要因が見当たらない。	
	通信業（営業担当）	・若干は持ち直す兆しは見えるが、際立って上向きになる要素は見当たらない。	
通信業（営業担当）	・企業は良くなる傾向が出てくるかもしれないが、一般消費者のレベルは変わらない。		
金融業（営業担当）	・特に大きな変化要因は無い。		
経営コンサルタント	・デスティネーションキャンペーンやテレビドラマの効果で東北への注目度が高まっている。		

	コピーサービス業（経営者）	・国の復興予算はまだ末端の我々の業界までまはきておらず、店頭は来客数も減少傾向にあり、凶面の動きが悪い状態である。また、物販営業も大口の取引は発生せず、小口の取引に追われている。	
	その他企業〔企画業〕（経営者）	・10月からの下期に期待したいが、それでも予算削減の影響は免れない。	
やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・今年は前年にも増して蕎麦の作付が多く、玄蕎麦価格の更なる値崩れが予想される。	
	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・行政等の発注量が減ってくるのが予想される。	
	土石製品製造販売（従業員）	・今年度の予算がほとんど復興事業へ回るため、大きな発注工事は落ち着いてからとなりそうである。	
	その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・管理している工場の先行きが上向きではない。当地でも規模の大きな工場であるため、それに伴い取引先である多くの小売業や運送業の仕事量の減少に繋がるのが懸念される。	
悪くなる	-	-	
雇用 関連 (東北)	良くなる	アウトソーシング企業（社員）	・受注件数が前年同期期と比べて増えており、閑散期がなくなっている。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・求職者が微減しながらも、引き続き求人が多くなる現象が止まらない。一方で、それでもマッチングする現状を分析すると転職が見えてくる。特に営業職やCADなどの技術職での動きが顕著になってきている。既存企業に収まっていた人材がついに重い腰を上げた様子が見て取れる。いよいよ景気が上がってきているように感じる一方で、実力が伴わない浮き足立った人も増えてきているのが心配である。
		人材派遣会社（社員）	・アベノミクス効果は数か月は期待を止め続ける。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・当県の場合、参議院選挙を以て知事選と仙台市長選があり、そこまでは復興需要とあいまって上向き傾向が続くとみられるが、その後の反動がいつくるのかという不安要素を抱えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業の採用意欲は積極的になっている。今後は雇用形態で正社員採用が増えてくれることを期待したい。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・過去の例からいえば、求人数が増えるイコール景気が上向きとなるが、そういった循環が起きている。
		民間職業紹介機関（職員）	・製造業は相変わらず停滞しているが、他の業種は求人も増加傾向となっている。総合的に判断すると良くなってくる。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・大卒採用企業において、内定辞退者が出た企業が追加の募集を掛ける行動に出ている。
		人材派遣会社（社員）	・現状は求人依頼が増加しているものの、年度替りという季節的需要も含まれているため、企業側の業績、派遣単価も含め、いまだ景気向上を実感するには至っていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・5月の申込状況も今一つである。7月の参議院選挙までは様子見が続くとみられる。
		職業安定所（職員）	・建設業、卸小売業及び医療・福祉関連からの求人は依然増加しているものの、新規求人数が2か月連続で減少しているのが気に掛かる場所である。
		職業安定所（職員）	・大手製造業の生産拠点再編による解雇者の半数がまだ就職できていない。また、今後も解雇の発生が予想されている。
		職業安定所（職員）	・新規求人の前年割れや季節的要因もあり、有効求人倍率の多少の変動はあるが、依然として求人は高水準で推移するものとみられ、状況が大きく変わることは考えにくい。
		職業安定所（職員）	・円安による原材料価格の上昇等が企業に及ぼす影響が懸念され、雇用にも及ぼす影響も注視する必要がある。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は12月の1.34をピークに、1月1.28、2月1.26、3月1.21と3か月連続で減少しており、先行きが心配である。
		職業安定所（職員）	・当所の基幹産業である製造業の求人は少なく、今後も急激に増加することは考えられない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は依然として高水準で推移するとみられる。そのなかで、建設業の伸びが見えているので、今後も同じ水準でいくとみられる。ただ、現状の景気としては大きく変動するものではないと推測される。
		職業安定所（職員）	・電力会社から7月以降の電気代の大幅な値上げ要請がある。直接的なコスト圧迫と原材料の値上げに結び付いた場合は利益の悪影響が予想され、人件費へのしわ寄せに繋がることも懸念される。景気拡大の期待と不安が相殺される、との製造業からの話があった。
やや悪くなる		人材派遣会社（社員）	・新規登録者の紹介キャンペーンを大きく展開したがほとんど実績はなく、2、3か月先の成約率に不安がある。
悪くなる	-	-	-